



2024.10.02

オンライン講座

精神医学（各論）_9_自傷・自死_4



もりさわメンタルクリニック

家族や患者に提供できる情報

- ・自殺の危険因子と保護因子
- ・精神医学的治療の導入と継続の重要性
- ・経済、生活問題、病気に関連した悩みを抱えている場合の相談窓口の存在や医療相談室などを介したケースワーク対応の存在
- ・危機対応の窓口（救急医療施設、精神科救急医療施設など）

自殺の危険性が高い患者への対応①

- ・治療者や関係者とのつながりを作る（「もっともである」と共感しながらとりあえず聴く）
- ・「死にたい」ということの正当性を問題にしない
- ・死にたい気分のまま生きられるのか（猶予、保留はできないか）
- ・問題を明確にするべきか、あるいはぼんやりさせたまま時間を稼ぐか（その時間で病理性を改善するか、状況の変化を待つ。）
- ・患者（相談者）の状態や会話への親和性を見極めて、可能ならば死にたい理由と生きられない理由をきく（答えがなければ、沈黙や答えのないことを共有する）
- ・どうして生きなければならないか、問われた場合（自分の答えを言うとしても、私はこう思うというかたちで。個人的にはあまり立派なことは言わないほうが良いと考える。案外、以下のようなありがちな例、ばからしい例のほうが共感が得られる）

例） 親が生きてるうちは死ねない 借金があって迷惑をかける 恥ずかしいことが明るみになる